ウチの図書館お宝紹介！ 第88回 弘前大学附属図書館

官立弘前高等学校資料整理中に発見されたお宝

—『津軽領元禄国絵図写』と太宰治『青春の肖像』写真—

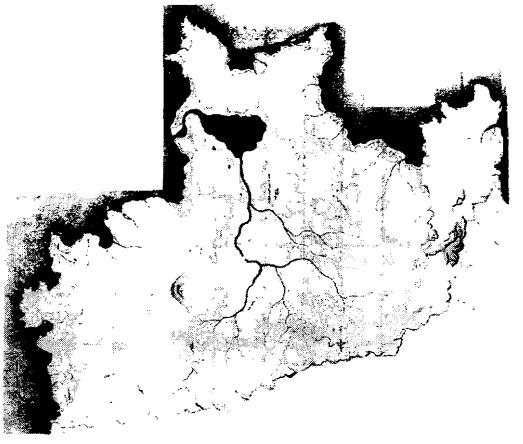
酒井量基

弘前大学附属図書館では，2008（平成20）年度の重点事業として，学内に分散して保管されていた弘前大学の前身の一つである官立弘前高等学校資料を集中して管理保管するために資料の収集，調査，整理作業を行うこととなった。この作業の過程において，思わぬお宝2点が発見され，全国的に紹介され話題となった。紙面をお借りして紹介したい。

1．『津軽領元禄国絵図写』

まず初めに紹介するのは，2008年10月30日に記者発表を行った『津軽領元禄国絵図写』である。2008年7月に長谷川成一館長の下に図書館職員，大学院学生等で官立弘前高等学校資料整理作業チームが結成された。7月下旬から約1か月の計画で始めた整理作業が一段落した8月25日，附属図書館書庫の郷土資料の中から分厚く折りたたまれた古い資料を長谷川館長が偶然発見した。

広げてみると南北3m余り，東西4mの津軽地方を描いた巨大な絵図が出現した。絵図には，弘前大学の前身である青森師範学校の受入れ印が押され，図中には次の書き入れがされていた。



▲元禄国絵図

陸奥国津軽領郡邑并高目録
元禄十四辛巳年十一月　津軽越中守
津軽郡高拾万三千九拾七石壱斗五升

日本近世史が専門の長谷川館長は，一目で正本，写とも現存していないとされている「津軽領元禄国絵図」であると確信した。お宝！「幻の国絵図」が出現した瞬間であった。

そもそも国絵図とは，近世の統一政権が，全国支配のために諸大名らに命じて作成・提出させた，一国単位の絵図である。豊臣政権でも作成されたが，江戸幕府においては，慶長（1610年代）・正保（1640年代）・元禄（1697-1700年代）・天保（1835）の4回にわたって作成された。津軽領の慶長の国絵図は元々なく，正保と天保の国絵図は原本か写しが残っている。この間をつなぐ元禄時代の国絵図は写しも含めて確認されていなかった。

見つかった国絵図の寸法は，縦（南北）338.8cm，横（東西）396.6cm。図中には，津軽領全域の道や川，隣り合う藩との境界，弘前城の位置，名山や古寺社，小判形をした村形に村名と石高などが狩野派の絵師によって，美麗な極彩色で克明に描き込まれている。また国境線・郡境線が引かれて，主要交通路が朱線で示され領内の地理情報が鳥瞰図のようにビジュアルに表現されている。

発見後，長谷川館長は，津軽国絵図の研究者である，青森県立郷土館の本田伸研究主幹，弘前市立博物館の鶴巻秀樹学芸員と多方面から検討を行った結果，この国絵図は，元禄14（1701）年11月，弘前藩が江戸幕府に提出した「国絵図御改ニ付書上帳」に見える，同年4月の国絵図を改訂した内

▲青森県立郷土館の特別企画
「新発見津軽領元禄国絵図」展

容とほぼ一致しており，幕府へ提出しようとした最終段階の国絵図の下図もしくは控図の写しであるとの意見で一致した。原図は焼失してしまい，本図は現存する元禄の津軽領国絵図としては，唯一の資料であり，極めて資料的価値の高い発見となった。

記者発表の後，この国絵図は一般公開の要望に応え，2009（平成21）年5月10日から19日の間に開催された青森県立郷土館の特別企画「新発見津軽領元禄国絵図」展に出陳された。本図とともに，『正保国絵図』，『天保国絵図』も展示され，巨大な国絵図が並ぶ様は壮観であった。

2．太宰治『青春の肖像』写真

巨大な国絵図の記者発表から半年たった2009年4月15日，今度は縦8.7㎝，横5.6㎝の1枚の小さな肖像写真を記者発表した。その写真とは，今年で生誕100周年となる官立弘前高等学校の卒業生，太宰治（本名：津島修治）が昭和2（1927）年に撮った数え18歳の肖像写真である。

この写真は，官立弘前高等学校資料整理チームが，資料整理作業の初期段階で発見した。

同資料の中の『昭和2年4月入学　写真帖　生徒課』の文甲一組の中にあったもので，未発表か否か発表する価値について調査が必要であることから，近代文学が専門の山口徹人文学部准教授にこの調査に加わっていただき，ほかに太宰研究の専門家の意見も伺い未発表の新資料であることを確認した。

この写真は，津島修治（1927年3月7日に県立青森中学校を修了）が官立弘前高等学校入学試験受験のために入学試験願書に添付する証明写真として写真館などで撮影したもので，いわゆるスナップショットではない。ピントの合った極め細やかな写りであり，頭髪を短く刈り込み真面目な表情で前方を見据える肖像は，若き日の太宰治の素朴で，清新な一面を伝えている。

▲見つかった写真

左胸（写真右側）にあるバッジは，中学時代に優等生であった証（山内祥史によると「平均点85点以上で操行甲の生徒は，「優良生表彰規程」によって，銀色の「優」の字がついたメダルを胸につけた」）であり，この写真が中学時代に撮影されたものであることの符牒となっている。中学時代の写真は集団で撮影されたものがほとんどで，この写真のように単独の肖像写真は類例がない。太宰治研究においても資料性が高いと思われる。また，官立弘前高等学校入学後の津島修治は髪を伸ばし始めたため，丸刈り姿で写っている最後の写真であろう。

本件写真を公開する前の3月下旬に太宰治の長女・津島園子氏に来館いただき，資料をご覧いただいた。そのときのコメントを披露したい。

「父親の青春時代が目の前によみがえってきたように感じられました。入学のときの希望に満ちた表情をじっと見つめておりますと，その後の苦悩の日々，文学との壮絶な闘いを想い合わせて涙が出そうな感動を覚えました。」

太宰を最も知る園子氏の言葉は，正にこの写真にふさわしい最高の解説である。

記者発表の後，全国の太宰関係の展示を行っている施設や出版社から写真の利用依頼が数多くあった。これらを通し多くの方々にこの写真を見ていただけることを願っている。

（さかい　りょうき：弘前大学附属図書館）

［NDC 9：090　BSH：1. 図書館資料　2. 弘前大学附属図書館］